



■2008年9月のマンスリーNEWS

■コラム

■今夏を振り返って

自動販売機でも世の中の流れを察することができます。まずは今夏の売れ筋商品について。これについてはミネラルウォーターが主流になったのは言うまでもありません。

各社500ペットを10円下げ、110円になり買いやすさも手伝いとてもよく売れています。その中でちょっと気になったのが、ダイドーの「麦茶」です。実はこの「麦茶」、驚くほど売れました。やはり価格が10円安いということと、ごくごく飲めるという”飲みやすさ”も手伝い大ヒット商品となりました。どちらも、少し安いのがポイントで現状の経済をよく表している結果となりました。

また今夏、当社では箱根・熱海・湯河原方面の自販機がよく売れました。ガソリン代の高騰でより近場にお客さんが来たということかもしれません。

さて秋以降の展開ですが、ホットへの切り替えをどんどん進めていくこととなります。当社では10月の末でホットへの切り替えが完了する予定になっています。

今後もしっかりとした自販機フォローに心がけてまいりますのでよろしくお願いします。



■コラム

■8月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5	SUNTORY売れ筋ベスト5
1位 ダイドーブレンドコーヒー	1 位 南アルプス天然水500PET
2 位 デミタスコーヒー	2 位 伊右衛門5 0 0 P
3 位 M I Uスポーツウォーター5 0 0 P	3 位 ゲーターレードトリプル5 0 0 P
4 位 M I Uピュアウォーター5 0 0 P	4 位 ダカラ5 0 0 Pゼロスタイル
5 位 Mコーヒー樽	5 位 ボス地中海ブレンド

DYDOは猛暑の中でもコーヒーが1位・2位をキープでした。サントリーは1～4位まで全て5 0 0 mlペットとなりました。

■コラム

■ウーロン茶の旅 下見報告 by アークルM

先月号でお伝えした通り、私達は神奈川・静岡・山梨の同業者3社で日頃の感謝をこめてお客様に「中国・アモイ、ウーロン茶の旅」を企画しました。詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

ということで、当社のMがその旅の下見を兼ねてアモイへ行ってきました。その時のレポートを今月号ではお届けします。

アモイの基礎知識

まずはアモイの紹介しましょう。アモイは左記の地図でもわかる通り ちょうど台湾の対岸に位置し、福建省にあります。

福建省はウーロン茶の産地としてはとても有名で



土楼



コロンス島からアモイの街を見る



アモイの中心街・中山路

また人々の生活水準は日を追うごとに高くなってきているようで普通の人々はマンション、アパートに住み、テレビ、DVD、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなども整い、日本の普通の生活とそれほど違いはありません。

しかしながらその一方で、あまり目にすることはありますが、まだまだ文化的生活とはいえない生活をしている人も少なくありません。アモイを車で3時間も離れると、生活水準は極端に低くなります。一般労働者の平均月収は、アモイでは1200元（約19,000円）から3000元（約47,000円）程度ですが、アモイから車で3時間も離れると600元（約9,000円）から1300元（約20,000円）程度と半分になってしまいます。

物価については、公共料金は日本の7分の1程度、その他の生活用品でおよそ3分の1から5分の1程度です。最近では、急激な物価上昇と家賃の上昇により、一般就労者の生活は厳しくなっているようで中国のインフレは日本より凄まじい勢いのようです。

コロンス島

さて、それでは私達が旅する場所を紹介していきましょう。コロンス島はアモイの一番の観光地です。ちなみにガイドさんが『アモイに来てコロンス島に行かない人はコロス』と冗談を言って笑わせていました。

コロンス島は1902年共同租界地に定められ、各国領事館、商社、学校、寺院が建設され、また華

す。それ以外にも「客家(ハッカ)」の故郷として有名です。「客家」は中国系移民の人々として知られ、東南アジアの3分の1は客家であると言われています。客家は昔「土楼」と呼ばれる円柱形の建物に住んでいました。(現在も住んでいます。)

この土楼もアモイの見所の1つです。今回のツアーではこの建物を見る予定は組み込まれていませんが、4日間のツアーであればオプションルツアーで見に行くことは可能です。(私個人的にはこれが見たいです。)
(土楼のオプションルツアー希望の方は、その旨を申し込む際に伝えて下さい。)

アモイは港町として発展してきた町で、人口は約150万人、アモイ島市街地には約100万人が生活しています。総面積は約1500平方キロで、その内アモイ島は約130平方キロあり、大陸との間は長さ約500メートルの2本の橋で結ばれています。

また中国に6ヶ所ある経済特区の一つで、外資系企業が数多く進出しており海外からの投資も盛んのようです。とにかく大都会といった感じで近代化は目を見張るものがあります。

僑の住宅や別荘も多く、旧日本領事館をはじめとする1900年代の建築物が多く残る地域で華僑博物館、日光岩、寂荘花園などの観光名所が数多く点在しています。

また、コロンス島には一台の車もなく美しい島です。3台だけ許可が出て走っている車があります。何か分かりますか？答えはゴミ回収車、救急車、消防車です。島の中は電動カートで移動します。



フェリーでコロンス島へ



島で唯一の乗り物・カート



旧日本領事館

コロンス島内の見所

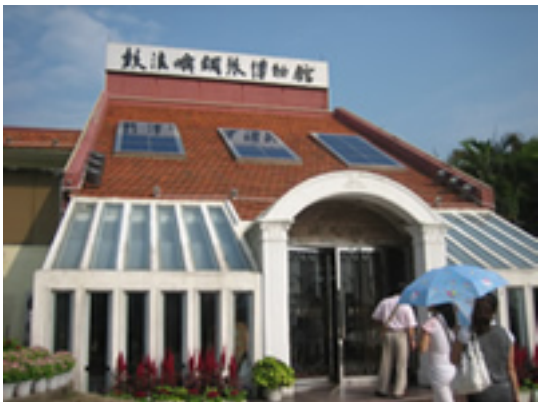
○アモイ博物館

コロンス島で華僑が競って洋館を建てた20世紀初頭、ある華僑がアメリカのホワイトハウスを模して1907年に造営した建物がアモイ博物館として開放されています。この建物は八卦楼という名で、アモイの近代建築を代表する建物にもなっています。

館内にはアモイの歴史に関する陳列物などがあります。ここにはコロンス島の洋館の説明があるので、それぞれの洋館の由来を覚えてから島を歩くと、旧スペイン領事館などの素晴らしい洋館を見過ごす事がないので、まずはこのアモイ博物館をチェックしましょう。

○鋼琴博物館

2000年にオープン。寂荘花園内の見晴らしのいい場所に立っています。オーストラリア在住の華僑胡友義先生が個人コレクションのピアノをコロンス島に寄付したことから出来た中国唯一のピアノ博物館で、約80台のアンティークピアノが展示されています。かつてコロンス島は別名『ピアノ島』と呼ばれていました。有名な音楽学校があり、卒業者には著名な音楽家がたくさん輩出されています。現在は『音楽の島』と呼ばれています。



ピアノ博物館入口これはNO1ちなみにNO2もある。



アンティークピアノ変わったピアノが多くマニアには必見かも？



写真撮影は禁止なのですが知らずに撮ってしまいました。

○秦漢唐芸術館



秦始皇陵軍陣銅車馬展が、常設展覧会としてコロンス島筆山洞窟内にあります。兵馬俑は西安の秦俑博物館がたいへん有名ですが、ここにあるものも西安から持ってきたもので、全部で1800体ほど展示されています。

秦始皇帝の衛兵である兵士達の顔立ちはそれぞれ異なり、館内では方陣を組み整列した兵士や馬を見ることが出来ます。

なお、館内では自由に写真を撮ることが出来ます。

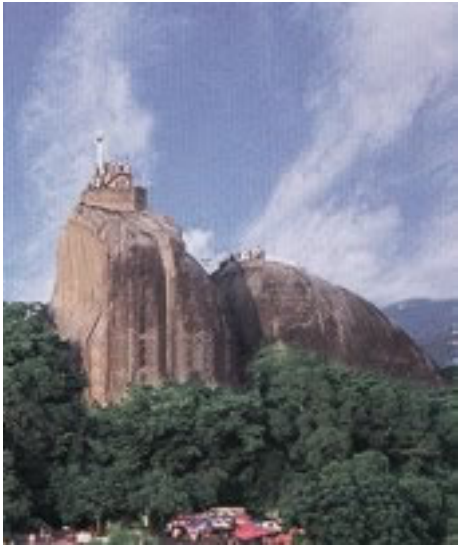
○寂荘花園



菽莊花園は、日光岩から下った港仔后海水浴場の脇にあります。1913年に造営され、園主の「林叔蔵」は自分の名の音にちなんで花園の名を「菽莊」としたといわれます。

庭園は、海園、山園の二つに大きく分けられ、どちらからも美しい風景が広がっています。

○日光岩



明の正徳年間（1506-1521）、山腹に蓮花庵という名の尼寺がありました。その後、鄭成功は晃岩に上陸したときここから眺める景色がはるか日本の日光に優るものだとし て、「晃」の字を日と光の二つに分け日光山とし蓮花寺も日光寺と名を改めました。

日光岩はちょっとしたハイキングも楽しめる場所で、頂上まで行く間には様々な刻石があります。なかでも「鷺江第一」と彫られた文字が有名ですの見逃さないように！ また、ロープウエーを使って西側に移動すると、百鳥園というバードパークにそのまま 行くことができます。



↑オシャレな街頭、町並みです。

結婚写真を撮っているカップルも。→



島内の雰囲気はまるで19世紀にタイムスリップした感じで時間がゆっくり流れていきます。

細い路地には、贅を尽くした建築が並び、当時のゴージャスな暮らしぶりを想像させます。けれど、その建物には島の人々が住み、軒先には洗濯物がひるがえり、世間話の声が聞こえ、お昼時には炒め物の匂いが流れてくるのです。

ただの観光名所でなく、いまでも生き生きとした生活空間のままなのがコロンス島の最大の魅力だと思います。

ゆっくりと散策を楽しんでみたら素晴らしい体験になると思います。

ウーロン茶の故郷を訪ねる

さて、次は今回のツアーのハイライト。ウーロン茶の故郷南安市安溪に向かいます。アモイの町からは約2時間のバスの旅となります。

ウーロン茶の歴史は以外と浅く、完成は150年くらい前と言われています。製法は半発酵という複雑な製法で作られます。簡単に説明すると採取された茶葉を揺すったり、攪拌しながら発酵させその発酵も完全に発酵させるのではなく、途中で止めるのです。そうすることによって味にまろやかさとさっぱり感が出てくるそうです。



茶畑入り口・下がお寺になっています



ここの茶畑は本格的に栽培している茶畑というより、記念館も兼ねているような感じです。ちなみにここの茶畑は全ての品種が見られるそうです。本格的に栽培している茶畑を見なければアモイから8時間のドライブだそうです。

そういえば、3年ほど前に中国の杭州を旅したことがありました。杭州も龍井茶（ロンジンチャ）で有名ですがその茶畑を撮った写真がありました。多分本格的な茶畑はこのようになっているのではないのでしょうか。



↑杭州・後ろのほうも見渡す限りお茶畑です。
(アモイではありません)

中国茶都

その茶畑からすぐ近くにあるのが中国茶都です。

ここは市場のように なっていて近郊から収穫されたお茶の買い付けや販売をしているところです。その規模の大きさには驚かされます。

(現在A F F ツアー参加者にここでウーロン茶お土産サービスを頂けるよう交渉中です。)



中ではたくさんの人がお茶の選別や作業したり、販売したりしています。

もちろん、ここで買うことも出来ます。金額の幅は驚くほどあり、500 g で50 円のものあれば、2万円のものもあります。



販売している人たち



選別作業している人たち



茎と葉を選別しています。驚くべきスピード

厦門茶葉進出口有限公司

次に訪問するのがこの会社。烏龍茶を中心に中国茶の生産、開発、製造と販売を扱っている近代的大企業です。

ちなみにサントリーはこの会社から烏龍茶を買って日本で販売しています。そのほかにもコカコーラやその他の飲料メーカー商社等と取引があるそうです。



訪問時は副社長がやはり熱烈歓迎で出迎えてくれます。この副社長なかなかのイケメンです。

会社の中に入ると烏龍茶のにおいがかなり鼻につきます。ここでは工場の作業工程などの説明を受け、その後工場見学をする事となります。

最後にとても美味しいウーロン茶をいただきます。



ここで私は「サントリーの黒烏龍茶って知っています？」と質問したところ、まったく知らないようでした。

まさに原料ではなく加工技術で付加価値商品を作っているサントリーです。

下見旅後紀

今回「ウーロン茶の旅」とテーマを決めて下見をしてきました。今回の旅ではたくさんのウーロン茶を飲みました。3日目には味の違いがだいぶんわかるようになってきました。

基本的に私達が飲んでいるウーロン茶はあまり質の良いものではありません。質の良いウーロン茶とはもっと黄緑色で香りが強いのです。また中国のお茶の文化や歴史はとても古く、中国人の生活に根付いていることも気づかされました。

それにしても、中国に行くといつも思うのが経済発展の凄まじさです。13億人の人が豊かになり、世界一の経済大国になるのはそう遠いことではなさそうです。

皆さんも御一緒に”アモイの旅”行ってみませんか？あ・あと食事は中華三昧ですが、いろいろな料理が楽しめますよ！

■コラム ■わが国の農業は周回遅れ

S氏の解説。またまたS氏の筆がうなる！

福田首相は、食料サミットにおいて、食料自給率を上げることを国際公約とした。いったいどうするつもりなんだろうか？日本の農業は、もはやとりかえしがつかないところまできている。

たとえば、米価が下がると、国は数万トン～数十万トンの単位で米を買い上げる。もちろんそのお金はわれわれの税金だ。そうして米の価格をつり上げておいて、消費者は高い米を買わされる。国民はダブルパンチを食らっている。また、米価を安定させ、農家の収入を守るための「減反政策」がいまだに続いている。

これは「米を作らなければ補助金を出す」という信じられない制度である。こんな制度があるから水田の約40%が米を作っていない。農地に関する税制も、相続税や売買にかかる税金が、大幅に優遇されている。しかも、子供が農業をやらなくても、貸し出しさえすれば優遇措置を受け続けることができる。とっくに廃業している「農家」が近所の人に無料で貸し出しているのは、農地として維持し、税制の優遇を受けるためだ。

それでは、やる気のある人や企業が、新たに農業に参入しようとする、今度は「農地法」という壁が立ちふさがり、「第3条 農家でないと農地を保有できません。あしからず。」と拒否されてしまうから、どうしようもない。

このように農家は手厚く保護されているため、零細農家ばかりで、生産性向上など、まったく考えるこ

となく生き延びてきた。その結果、米の生産コストはアメリカの8倍にもなってしまった。そういう人たちが、いまさら頑張ったところで、国際競争に勝てるはずがないだろう。

ここまで保護されて、ウハウハ儲かってるならまだわかるが、そんな話は聞いたことがない。つまり政策は失敗したまま放置されているのである。実際のところ、家庭菜園や兼業でなんとか農地を維持し、税制の優遇を受け続け、そのうち道路や新幹線が出来て、土地を高値で売却できるのを待っているのである。農家で金持ちになった人は例外なく土地成金だ。ここまで、がんじがらめになってしまったのは、農協（生産者の代表組織）だけで排他的に取り仕切ってきたからである。そして、政治家は選挙のために、消費者を犠牲にして保護政策を続けてきた。去年の参院選で民主党は、農家へ戸別保障を打ち出したが「まだやるのか？」とあきれるばかりである。

結局、農家は自分たちを守るバリアを張り巡らすことに成功したものの、国際的には日本の農業を周回遅れにした。彼ら があとできることは、関税撤廃や輸入規制緩和に反対を唱えることぐらいであろう。誰が悪いのか、といえば、農協と政治家が真っ先に頭に浮かぶ。しかし、メディアの責任もある。メディアは、工業やサービス業に関しては消費者の立場で厳しいチェックを行うが、こと農業や漁業になると、なぜか、生産者の立場にたった報道を行うのである。

政府は、本気で農政改革をするつもりがあるなら、すべての利権と法律を破棄し、ゼロベースでリセットするしかない。しかし、そんなことは絶対出来っこないから、自給率が上がるはずはなく、残念ながら、食糧をいかに外国から確保するか、ということを考えるしか手はないのである。

■コラム

■韓国テレビドラマ「商道・サンド」

完全にはまりました！

これは本当に面白いドラマです。奥が深い！！



19世紀 朝鮮王朝時代――
貧しい境遇に生まれながら、私利私欲よりも世のため人のために商売を行い、高麗人参貿易で巨財を成して、晩年そのすべてを民のためになげうった歴史上の偉人であり朝鮮時代最高の大商人 イム・サンオク。

”武士道”ならぬ“商道”を成したその商人哲学と、その知徳で数々の苦難を乗り越え、賤民から宮廷より「従三品」の地位を授かるまでに上りつめた実在の大商人の波乱万丈の生涯を描いた 骨太の感動巨編！商道を通じて、人の道とは何か、生きることとは何なのかということを見る人 の心に深く刻み込む！

B S 朝日でやっていたようですが、私はDVDレンタルしてきました。「チャングムの誓い」のイビョンフン監督の作品なので、期待して観ましたがその期待は裏切りませんでした。内容的には商売のことだけでなく、恋愛ドラマ的要素も多分に含まれていますので女性が観ても大変面白い作品だと思います。

全50話からなる作品なのでかなり見ごたえはあると思います。私は7月後半から8月中旬にかけていっきに観てしまったので、やや寝不足気味になってしまいました。

商売はやられている方はもちろん、いろいろな意味で勉強になると思います。是非お奨めですので皆さん観てみてください。

最新のサントリー工場が綾瀬に完成！！
そのレポートも来月号ではお届けします。



■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です！

ただいまブログは8名が更新中です。

- ・所長のブログ（小田原H所長）
- ・チーフの給湯室（小田原Mチーフ）
- ・情報最前線（海老名K所長）
- ・促進課・ほしやんの鼻からうどんいれたるか
- ・促進課オヨヨ
- ・販促課オオクワ80mm
- ・産地直送！新鮮ネタ（海老名Nチーフ）
- ・古本おやじの独り言（98キロの人面冷凍マグロ）



今月号のマンスリーで同封しましたので。興味のある方は是非、問い合わせ下さい。0465－36－4530アークルまで。

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

■2008年度のマンスリーNEWS			
➡	2008.08	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.07	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.06	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.05	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.04	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.03	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.02	アークル	マンスリーNEWS
➡	2008.01	アークル	マンスリーNEWS

■マンスリーNEWSアーカイブ		
➡	最新	マンスリーNEWSトップページ
➡	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ

	2006年度	2 0 0 6年のマンスリーNEWSアーカイブ
	2005年度	2 0 0 5年のマンスリーNEWSアーカイブ
	2004年度	2 0 0 4年のマンスリーNEWSアーカイブ
	番外編	マンスリーレポート番外編